

みやざき

11月4日 ~ 11月8日

JCI世界会議チュニス大会

11月4日(火)から8日(土)にかけて、世界各国のJCメンバーが集う年に一度の国際大会「JCI世界会議」が、北アフリカのチュニジア共和国・首都チュニスにて開催されました。宮崎JCからは16名が参加し、大会テーマ「Leading by Innovation(革新によるリーダーシップ)」のもと、各国のJC運動や社会課題への取り組みに触れながら、国際的な視野を広げる貴重な機会となりました。世界中のメンバーと直接交流する中で、新たな価値観や学びが生まれ、参加者にとって大きな刺激となりました。

大会期間中の目玉の一つである「ジャパンナイト」では、宮崎JCがブースを出店し、宮崎の魅力の世界へ発信しました。6月のASPAC(アジア大会)に続いての挑戦で、ASPACでは「会頭特別賞」を受賞しており、世界会議では「二冠達成」を目指して臨みました。今回は宮崎名物の地鶏の炭火焼と焼酎「木挽BLUE」を提供し、多くの来場者から「美味しい」「宮崎に行きたい」と高い評価をいただきました。惜しくも一位受賞には至らなかったものの、僅差だったとの声も多く、悔しさと同時に大きな手応えを感じる結果となりました。今回の世界会議を通して得た経験、国際的なネットワーク、そして各国の仲間との交流は、宮崎JCの今後の運動に必ずプラスとなる大きな財産です。地域と世界をつなぐ架け橋として、宮崎JCはこれからも挑戦を続けてまいります。



11月例会メインアワー

11月10日

11月10日(日)、シーガイア コンベンションセンターにて11月例会メインアワー「家族感謝祭」を開催しました。例会開会前には、歴代理事長立ち会いのもと「プレジデンシャルリース伝達式」が執り行われ、第74代理事長 野村翔悟君から第75代理事長予定者 山崎隆太郎君へと引き継がれました。宮崎JCの歴史を未来へ繋ぐ象徴的な瞬間であり、会場には緊張感と期待が満ちていました。

続く「家族感謝祭」では、日頃からJC活動を支えてくださるご家族へ感謝を伝える特別な時間を設けました。華やかな会場では子どもたちの笑顔や家族同士の交流が広がり、普段共有できないJCの空間を家族とともに過ごす温かなひとときとなりました。抽選会では豪華景品に歓声が上がり、会場は終始明るい雰囲気の中に行われました。

また、家族の前で宮崎JCの1年間の成果を讃える「AWARDS MIYAZAKI 2025」を実施。会議体委員会賞、メンバー賞、拡大貢献賞、新人賞、SNS賞、全員力賞の6賞が授与され、仲間を称え合う拍手が響き渡りました。家族とともに喜びを分かち合うこの表彰式は、活動の価値を再認識し、明日への前向きな力につながる時間となりました。

12月17日

12月例会メインアワー

12月17日(水)、12月例会メインアワー内にて卒業式を執り行いました。本年度最後の例会となるこの日は、冒頭に野村理事長より一年間の活動を振り返り、宮崎JCメンバーへの感謝が述べられ、温かくも引き締まった雰囲気の中で開会しました。



その後、例会メインアワーとして「卒業式」が厳かに執り行われました。オープニングでは、宮崎商業高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスが披露されました。本年度スローガン「全員力」の文字を、楽曲に合わせて力強く書き上げる姿に、会場は一体感と感動に包まれ、大きな盛り上がりを見せました。卒業式開会にあたり、野村理事長より理事・役員メンバーへの感謝の言葉が述べられ、あわせて直前理事長である河野幸治先輩にもご臨席いただき、式に華を添えていただきました。続いて卒業生が登壇し、JC活動への想いや仲間への感謝、そして今後への決意が一人ひとりの言葉で語られ、それぞれの歩みと歴史を感じる時間となりました。また、姉妹JCである榎原JCをはじめ、日本JC主催者意識向上委員会、JCI関係委員会からもご臨席いただきました。山崎副理事長による送辞では、これまで宮崎JCを支えてこられた卒業生への深い敬意と感謝が述べられました。さらに、2025年度卒業生の世話人として曾地英樹君が発表され、卒業生会の名称は「百年会」に決定しました。昭和100年にあたる本年にちなみ命名されたこの名称には、次代へ想いをつなぐ強い意志が込められています。フィナーレでは、卒業生を中心としたライブパフォーマンスが披露され、会場は笑顔と大きな拍手に包まれました。本例会メインアワーをもって、14名の卒業生が宮崎JCを卒業されました。改めて、ご卒業おめでとうございます。

卒業



OBからのメッセージ

サポテ

寒さが一段と厳しくなり、年の瀬を感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私がJCを卒業してから少し時間が経ちますが、この時期になると、例会や事業に追われながらも仲間と共に過ごした日々を思い出します。JCを卒業するまでの時間は決して楽なことばかりではありませんでしたが、その分、多くの経験と人とのつながりを得ることができました。今振り返ると、忙しい中でも本気で向き合ったあの時間こそが、自身の成長につながっていたのだと感じています。現役の皆様は、公私ともに忙しい日々を過ごされていると思いますが、JCで過ごす一瞬一瞬は、卒業してからこそ実感できる価値があります。どうか体調に気をつけながら、仲間との時間を大切に、最後まで駆け抜けてください。皆様のこれからの歩みを、陰ながら見守っております。

Congrats on your graduation!

You nailed it. Dream big and achieve more!



< 卒業生 >

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 【2010年入会】 岩倉 誠吾君 | 【2018年入会】 藤元 昭太君・日高 龍太郎君 |
| 【2013年入会】 金本 純一君 | 【2019年入会】 曾地 英樹君 |
| 【2014年入会】 鐘ヶ江 良君 | 【2020年入会】 野田 敬之君・野村 翔悟君・村社 司君 |
| 【2015年入会】 西岡 幸則君 | 【2022年入会】 楠木 新太郎君 |
| 【2017年入会】 児玉 真吾君 | 【2023年入会】 若林 俊輔君・坂元 亜樹奈君 |

contents >>>

2025宮崎JC AUTUMN 秋季事業報告

例会報告(10・11・12月)

令和7年度 宮崎神宮大祭/JCI世界会議チュニス大会
ワールドテラス2025/全国大会 佐賀大会/榎原JC交流事業/グローバル育成プログラム 他



企画・編集・発行

JC News Miyazaki / Vol.680 2025 WINTER

一般社団法人 宮崎青年会議所 パブリシティ委員会

〒880-0865 宮崎市松山1-12-7大春ビル3F TEL:0985-28-2522 FAX:0985-28-2466

一般社団法人 宮崎青年会議所は持続可能な開発目標SDGsを支援しています。

2025年 宮崎JC 秋季事業報告

9月27日 ワールドテラス2025

9月27日(土)、宮崎公立大学にてインターナショナルフェスタ「ワールドテラス2025」を開催しました。今年のテーマは「全員交流」。宮崎市民と在住外国人がともに学び、触れ合い、誰もが安心して暮らせるまちを目指して実施しました。12カ国が参加した「みやざき万博交流エリア」では、民族衣装や文化体験が賑わい、子どもから大人まで国際文化に触れる時間となりました。「防災エリア」では消防車展示や紙芝居、防災ワークショップを行い、地域の防災意識向上につながりました。「アートフェスティバル」では在住外国人が描く「宮崎」をテーマにした作品を展示し、「フードエリア」には各国のキッチンカーが集結しました。また、在住外国人支援を行う「m HUB」、日本年金機構、清武町国際交流協会による案内・周知も行われ、地域と国際支援を結びつける場となりました。ステージエリアではJC太鼓のオープニング、DJタイム、抽選会、MSGミャンマーステージ、公立大生パフォーマンスなどを実施。ラストのSOUL踊りでは、在住外国人と来場者がともに「We are the world」を合唱し、テーマである「全員交流」を象徴するフィナーレとなりました。前日から来訪されていた姉妹JC・ポートJCの皆さまにもご参加いただき、国際的な交流の輪がさらに広がる契機となりました。多くのご来場をいただき、国際交流と地域のつながりを実感する一日となりました。



10月16日 10月例会メインアワー

10月16日(木)、アマンダンブルー青島にて10月例会を開催しました。青島の雄大な景色に包まれた会場には多くのメンバーが集い、いつもとは違った緊張感のある雰囲気の中で例会がスタートしました。例会後には、今年度の新入会員31名を迎える「正会員認証式」を実施しました。緊張した面持ちで登壇する新入会員一人ひとりの姿には、JC運動への強い意欲と未来への期待が滲み出ており、宮崎JCの新たな力として共に歩む仲間が増えたことに、会場全体が温かな拍手に包まれました。先輩メンバーにとっても、自らの原点を思い出し、組織の歩みを次世代へつなぐ大切な時間となりました。メインアワーでは、日本JCより、女性として初めて副会頭を務められている 神畑 浩子君をお招きし、ご講演いただきました。演題は「清く、正しく、しなやかに」。国際アカデミー担当委員長としてのご経験や、多様な分野で挑戦を重ねてこられた歩みを交えながら、リーダーとしての在り方、組織における多様性の価値、そして挑戦し続けることの重要性について語っていただきました。神畑君の力強くも温かいメッセージは、参加したメンバーの心に深く響きました。「地域の未来をつくるのは、挑戦し続ける私たち自身である」という想いを改めて共有する貴重な機会となり、会場は学びと刺激に満ちた空気に包まれました。本例会を通じて、新入会員と既存メンバーが共に学び、互いの想いを確認し合うことで、宮崎JCとしての結束はより一層強固なものとなりました。今後も新たな仲間と共に、地域の未来を創るJC運動を力強く推進してまいります。



第74回全国大会佐賀大会 10月10日～10月12日

10月10日(金)～12日(日)の3日間、「第74回全国大会佐賀大会」が開催され、今年度の大会テーマ「Plus Ultra(プルスウルトラ)～理想の先へ～」のもと、全国から約11,000名のJCメンバーが佐賀に集結しました。宮崎JCからは80名が参加し、全国の仲間とともに学びと交流を深めました。初日は開会式・総会に続き「AWARDS JAPAN」が行われ、全国各地のLOMが1年間の成果を称え合いました。2026年度への引継ぎ式では、新たな挑戦に向けた決意が共有されました。2日目は佐賀市文化会館にて3つのフォーラムが開催され、その後の大会会典・卒業式では、卒業生への感謝と絆が溢れる感動の時間となりました。夜には「LOMナイト」を実施し、卒業生と約3時間にわたり懇親を深め、これまでの活動をともに振り返りながら、熱い想いを次世代へとつなぐ貴重な場となりました。最終日は「次年度役員セミナー」「スタートアップセッション」を経て閉会式・解団式へ。全国の仲間がそれぞれの地域での新たな一歩を誓い、大会は盛況のうちに幕を閉じました。来年の全国大会開催地は「神戸」です。再び全国の仲間と集い、挑戦を共有できることを楽しみにしています。宮崎JCとしても、この3日間で得た熱量と学びを持ち帰り、次の運動へとつなげてまいります。



グローバル育成プログラム 4月～10月

4月より始動した「グローバル育成プログラム」には、宮崎市内の小学4～6年生18名が挑戦しました。半年間にわたる実践的な活動を通じ、語学力や異文化理解のみならず、これからの時代に求められる主体性とリーダーシップを段階的に習得しました。4月から7月の研修では、宮崎大学の留学生と共に、英語での自己紹介やVR体験、入国審査の模擬体験等を実施。海外研修に不可欠なコミュニケーション能力と判断力を着実に養いました。その後のメインプログラムでは、10名が「シンガポール研修」に、8名が「国内ホームステイ受け入れ」にそれぞれ挑みました。8月のシンガポール研修では、姉妹JCであるマリーナJCとの交流以外にも子どもたちだけで挑んだホームビジットや現地小学校訪問、公共交通機関を使ったミッション、企業訪問、など、多くの挑戦を自らの力で乗り越え、大きな自信となりました。9月のホームステイ受け入れでは、宮崎大学の留学生を家族の一員として迎えました。家庭という密接な環境の中で、互いの文化を尊重し合う「異文化共生」を家族と共に実践しました。続く「ワールドテラス2025」では、台湾の姉妹JC(ポートJC)の案内役を務め、国際的な視野を持ちつつ地域を紹介するリーダーシップを発揮。10月の成果発表会では、半年間の学びを自ら整理し、「何に挑戦し、どう成長したか」「未来に何をを目指すか」を堂々と発表しました。その姿は家族や関係者に大きな感動を与え、本プログラムが生み出した確かな変化を実感する時間となりました。



11月1日 2日 宮崎神宮大祭

11月1日(土)、宮崎神宮大祭が執り行われ、昭和43年の初参加以来半世紀以上にわたり継承してきた伝統行列に今年も参加しました。姉妹JCである檀原JCも参加していただき、より華やかな雰囲気の中で祭りを盛り上げることができました。早朝から山車の組み立てを行い、宮崎神宮での昇殿参拝を経て、午後は神賑行列として瀬頭御旅所まで練り歩きました。山車の上では、太鼓同好会を中心に宮崎JC・檀原JCの卒業生や新入会員が力強い演奏を披露し、沿道からの温かい声援にメンバー一同、胸が熱くなる場面が何度もありました。夕刻には神武さま広場の「鼓動ステージ」に移動し、2回のJC太鼓演奏を実施。迫力ある演奏は観客から大きな拍手をいただき、地域に根差した活動の存在感を示す機会となりました。また、ふるまいコーナーでは檀原JCと協力して「じゃんぼお好み焼き」を提供し、多くの皆さまに喜んでいただきました。夜には檀原JCとの懇親会が開かれ、両JCの絆を深める温かな交流の場となりました。翌2日(土)も瀬頭御旅所から宮崎神宮まで行列に参加。沿道からの声援に支えられながら歩み、地域とのつながりを改めて感じる時間となりました。宮崎神宮到着後には卒業生にとって最後の太鼓演奏を披露し、これまでの感謝と未来への想いを力強い音に乗せて届けました。行事後の直会では二日間を振り返り、卒業生への感謝を伝える温かな拍手が会場に広がりました。伝統を守り、仲間と歩み、次世代へつなぐ意義を実感する、宮崎JCにとって忘れられない二日間となりました。



9月1日 2日 檀原JC交流事業

9月1日(月)～2日(火)にかけて、姉妹JCである檀原JCとの交流事業を檀原の地に実施しました。宮崎JCからは21名が参加し、1日目は檀原JCメンバーとの昼食をはじめ、観光やBBQを通して親睦を深めました。とりわけ来年度に控える「姉妹JC締結30周年」を前に、互いの歴史を振り返りながら、これまで築いてきた絆を再確認する貴重な時間となりました。2日目は、宮崎神宮大祭で共に太鼓を演奏するため、太鼓同好会の指導のもと合同練習を実施しました。真剣な表情で太鼓の音を合わせる姿には、両JCの強い連帯感がにじみ、今年の奉納への期待が高まりました。昼食会では、2日間の締めくくりとして、互いの活動への理解をさらに深めるとともに、今後の連携や新たな交流の可能性について意見交換を行いました。終始温かな雰囲気の中で、宮崎JCと檀原JCの絆はより一層強固なものとなりました。

